



高山市バスケットボールフェスティバル

平成30年11月17日に飛騨高山ビッグアリーナにて、飛騨地区内の小学生、中学生、高校生が参加して高山市バスケットボールフェスティバルが開催されました。これは、「カテゴリーの異なるチームが試合を通して交流を図り、親睦を深めること」、そして、「カテゴリーの異なるバスケットボールに触れることで、新たな発見や刺激を受けることのできる環境をつくること」を目的として開催されました。中学生&高校生はハーフゲームを、小学生は3Qゲームを行いました。どのチームも試合に精一杯取り組む姿と、普段見ることの少ないカテゴリーの異なるゲームを真剣に見る姿がありました。



編集後記

今年度よりB3リーグに、岐阜市を本拠地とする「岐阜スーパース」が新規参入しました。OKBぎふ清流アリーナでのホーム開幕戦は見事勝利を収めました。チームスローガンは「IGNITE GIFU -岐阜に火をつける-」です。

地元岐阜県にこういったチームがあり活躍を見せてくれることは、子どもたちにとっても目標となりうる素敵なことだと思います。活躍を願っています。(S.M)



蓑谷新会長の就任あいさつ

昨年度まで長きにわたり会長を務めてこられた垣内征雄氏の後任に、平成30年度より蓑谷雅彦氏が就任しました。蓑谷新会長の就任あいさつをお届けします。



高山市バスケットボール協会会長就任に当たり、一言ご挨拶申し上げます。

皆様方には平素より高山市バスケットボール協会の運営にご理解とご協力を賜り厚くお礼申し上げます。

前会長垣内征雄氏には長きにわたって、市協会ひいては県協会発展のために一方ならぬご尽力をいただきました。バスケットボールの普及、競技力の強化、指導者の育成等に積極的に取り組まれるとともに、機能的な組織運営の充実を図っていただき、2000年全国高校総体、2005年全国中学生大会、2012年第67回国民体育大会を高山に誘致し成功裏に開催され、市協会にとって歴史に残る大きな事業を成し遂げられました。バスケットを通して高山市の発展に大きく寄与されましたことに深く感謝とお礼を申し上げる次第です。

会長就任に当たり「人の和を大切に」をモットーにバスケットボールの素晴らしさを発信できるよう取り組んでいく所存です。しかしながら協会運営は決して一人の力で機能するものではありません。協会員の皆様のご協力をいただきながら一步一步着実に協会発展に努力してまいりますので、これまで以上のご指導ご鞭撻をよろしくお願い申し上げます。

2018年 高山市バスケットボール協会
会長 蓑谷雅彦

TAKAYAMA AMATEUR BASKETBALL ASSOCIATION

飛騨高山のバスケットボールを盛り上げよう!

編集・発行：高山市バスケットボール協会

tabba.jp

高山市バスケットボール協会は
賛助会はじめ協会を支えてくださる
皆様のお力添えをいただきながら、
地方が疲弊化する中で若者に
バスケットボールを通じて夢と誇りを持って頂き、
この地域を支える大きな担い手としての存在を希望しながら
これからも協会活動に邁進していきます。



高山のチームが活躍した中体連

今年の中体連県大会は、男子は東山中学校が準優勝、女子は松倉中学校が優勝、日枝中学校が準優勝と高山市のチームが活躍し、東海大会に出場しました。中体連を終えての感想をインタビューしました。

東山中学校 角竹正多

東山中バスケットボール部目標 !! 「全国大会出場 !!」この目標に向かって頑張ってきました。今思えば、この3年間バスケばかりしていました。楽しかったこと、悔しかったこと、うれしかったことなど、全てがよい思い出です。県大会では準優勝して、地元で行われる東海大会に出場。2つ勝つことができれば夢の全国大会に出場することができます。初戦は愛知県1位の甚目寺中。コートを走り回り、力の限り戦いました。残り時間3分、僕は退場をしてしまいました。点差はどんどん離れました。しかし、仲間が頑張ってくれたおかげで、残り1秒で追いつき延長戦へ。惜しくも敗れてしまいましたが、後悔はありません。今までで最高の試合となりました。このチームでバスケができたこと。みんなと1つの目標に向かって努力できたことは、一生の宝物です。この経験を生かして、これからの人生をバスケと共に歩いていきたいです。



松倉中学校 殿垣内 伽奈

ずっと目標であった県大会優勝を果たし、最高の結果で部活を終えることができました。県大会では、チーム全員が最後まであきらめず、「絶対に勝つ」という強い気持ちで一戦一戦挑みました。仲間が試合中にミスをして、気持ちを切り替えてリズムボールを追いかけて、果敢にゴールに向かったりする姿に励まされました。私たちのチームは、試合を通してどんどん気持ちが一つになっていくような気がしていました。優勝した瞬間は、全員が泣きながら仲間と抱き合いました。仲間、親さん、先生やコーチと共に喜び合えた瞬間は、最高の宝物となりました。



自分がキャプテンを任されてからは、仲間にも上手く思いを伝えられず、仲間を不安にさせてしまうことがありました。悩んで苦しい時期がありましたが、先生やコーチや仲間、親の励ましに助けられました。そのおかげで、最後までキャプテンをやりきることができました。この貴重な経験は、これからの人生で、困難に直面した時に勇気もらえる経験となりました。「辛い時もあるけど、乗り越えれば、その何倍もの喜びと達成感がある!!!」ということを後輩に伝えていきたいです。

日枝中学校 杉本玲名 (3年)

中体連では、練習してきた成果が発揮され、楽しく試合をすることができました。しかし、「県大会優勝」を目標にやってきたので、決勝で負けたのは悔しさが残りました。また、引退してみると、練習に打ち込んだり、練習試合をしたりしていた頃に戻りたいと思うことがあります。それだけ充実した日々を送らせてもらったのだとわかりました。支えてくださった保護者や先生、仲間感謝しています。

日枝中学校 知手莉央 (2年)

先輩方と県大会を優勝したかったのですが、残念ながら負けてしまいました。今、私たちは、新チームとして活動しています。目標は、先輩とできなかった県大会優勝です。先輩方が抜けた分を補えるくらい一人ひとりがレベルアップしたり、チームワークを高めたりして、県大会を優勝します。



原田茂先生によるクリニック

平成30年8月6日7日に原田茂先生(元女子全日本代表ヘッドコーチ)を招いてバスケットボールクリニックが開催されました。クリニックでは1対1におけるディフェンスの足使いなどを丁寧に教えていただきました。こういった機会を生かして、高山の子どもたちがさらに技術を身に付け、バスケットボールに励んで欲しいと願います。今回は参加した指導者と生徒にインタビューをしました。

インタビュー

日枝中学校指導者(長瀬 純)

「目的」と「手段」が具体的に示され、考えながら練習に取り組む選手の姿が印象的でした。練習のなかで次第に変わっていく選手の姿を目の当たりにし、バスケットの理論と選手を育てるマネジメント、そして情熱、コーチングに関わる根幹的な部分を示していただいたと感じます。

また、高山では、先輩方のおかげで、我々のような経験の浅い指導者が学べる機会が多くあります。このような機会を頂けたことに感謝すると共に、選手たちを育てることが指導者の使命だと痛感いたしました。

生徒(中1女子)

原田先生から「目標があると成長できる。目標がないと成長できない」という言葉を聞いて、私はまだ全然できないので、部活動の練習も家での練習も目標をもって取り組んで上手になりたいです。

生徒(中1女子)

ディフェンスのときに抜かれないためには、足を横に出すことが大切と習いました。最初はなかなかできませんでしたが、「矢印の向きに足を動かす練習」などを通してコツを掴んでできるようになりました。これからの練習で意識したいです。

